

モリアオガエルと卵



モリアオガエルの卵

復刊 74号

妙たえの光ひかり

初夏の日の夕方、三重塔の池の鯉に餌をやりに行きふと見ると、足もとの石にモリアオガエルがいた。木の上で暮らして池や沼など水面にせり出した枝に、泡状に包んだ卵を産み付ける特殊な生態で知られる。

このところ毎年のようにこの池で卵を見つけて気になっていたが、初めて親に会えた。普段は木の多い森林に住み、産卵で池の傍に来るといふ。水面に木の枝がせり出すような自然環境が減って、天然記念物に指定する県もあるとか。

作って6年程のコンクリートを張った人口の池だが、春先の池底の掃除の際にドジョウやザリガニも見つかった。それだけ自然に溶け込んだといえるのかもしれない。

藻の畳もりあおがえる落ちてよし 山口誓子

行事案内



関東地区お盆参り 7月初旬

関東地区檀信徒宅にお盆のお参りに伺います。

お盆墓詣り、施餓鬼法要、新盆法要

※新盆法要は A日程 B日程 お選びいただけます。

8月1日(月)

- 午前6時～10時…墓前の読経受付
 - 10時30分……安穩廟法要
 - 11時………本堂で施餓鬼法要とA新盆法要
 - 12時………おとき
 - 午後1時………法話
- おとき申込他、会費の受付も当日できます。

8月7日(日)

- 10時30分………B新盆法要
- 11時30分………おとき

お盆棚経 8月初旬～16日

旧新潟市内、県内遠隔地はご連絡の上で8月初旬から。近郊のお宅は従来の日程ですが、予定を知りたい方、お留守になるお宅は5日以降に電話ください。

岩屋七面様祭礼 8月19日(金)

午前10時・本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼に赤飯のご供養があります。自由にお参りください。

万灯のあかり—妙光寺の送り盆 8月27日(土)

(第22回フェスティバル安穩)
詳細は別紙パンフレットをご覧ください。

秋季彼岸会中日法要 9月23日(金・祝日)

- 午前10時半 安穩廟法要
 - 11時 本堂にて彼岸会中日法要
 - 12時 おとき
 - 午後1時 住職の法話
- 予約等不要ですので自由にお参りください。

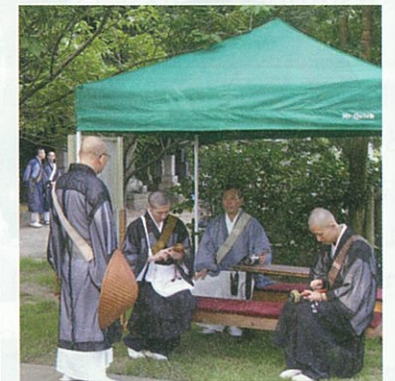
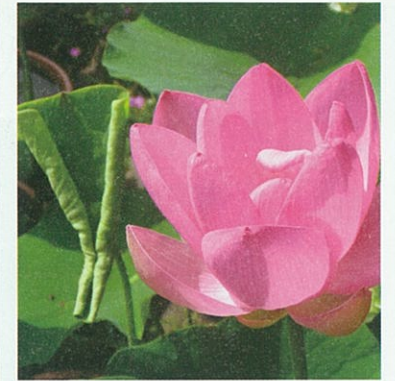
月例信行会

7月3日、8月7日、9月4日 毎月第1日曜

- 午前7時 法要と軽い作務
 - 8時 お粥の朝食
- 予約不要で当日賽銭箱に会費千円を。

ボランティア 毎月15日

(8月はお盆で休止)
●午前9時～11時30分 午後1時～3時
境内の清掃作業 雨天の場合は“蓮の花飾り”準備作業



あとかき

身内や知り合いに被災者はいませんか。本当に心痛むこのたびの災害です。震災は奢る人間への天罰といった政治家がいましたが、犠牲になった多くの子どもたちに何の罪があるのでしょうか。私たちにできることからこの国を変える気持ちが大切ではないでしょうか。

節電で暑い夏、ご自愛下さい。

小川



身近な震災復興支援

小川英爾

このたびの震災では本当に数多くの犠牲者があり、また福島原発事故は最終的な被害の予測がまだにつかめない、不安な日々が続きます。被災の方々にお見舞い申し上げ、犠牲者のご冥福、一日も早い原発事故の終息を祈るばかりです。

関係者に甚大な被害はありませんでした

地震発生時、私は寺で来客の対応中でした。地盤がいいのか地震でもあまり揺れを感じないのですが、今回はここでこれだけ揺れるということは震源近くの被害が大きいのではないか、急いでテレビのスイッチを入れました。

やがて被害の様子が刻々と映し出されます。まずは仙台に住む私の娘、そして兄夫婦、さらには東北地方にお住まいの檀信徒・会員の方々の安否です。電話は全く不通です。やがて娘はメールで無事を確認。しばらく後、アメリカにいる兄夫婦の三女から、両親は無事とのメール。偶然かアメリカからの電話が通じたらいいのです。

数日後、固定電話の通話ができるようになってから、東北と北関東にお住まいの30軒余りの檀信徒・安穩会員に安否の確認

をさせていただきました。1件を除いて全員無事、その1件も後日無事が確認できました。「家の中はめちゃめちゃですが、家族皆元気です」「家の手前100mまで津波が来たけど無事でした」「ウチは大丈夫なんだけど駅も鉄道も壊滅的で、どこにも逃げられない」。とにかく生命にかかわる被害の方のないことは幸いでした。

妙光寺の被災者支援態勢

それなら被災地に妙光寺として何ができるか。現地に向かうと言っても何ができるわけでもないし、途中の道路情報もガソリンも現地の情報も何も無い。仙台市内の知り合いの住職に電話が通じて尋ねたら、現地でもまだ何も手につけられない状況とのこと。内部で相談の結果、新潟に避難している方々の受け入れができないか。体育館ではつらい高齢者や、幼い子供がいる家族を5組までなら比較的ゆったり過ごしてもらえ。檀信徒の農家からは「そうならば米と野菜を提供する」との申し出もいただきました。

早速永石、鎌田上人が新潟市の避難所3ヶ所を訪ね、行政の担当者にお伝えしました。感謝されてその際は連絡する旨

の御返事でした。この間、仙台への一般道路が通行可能となり、私は車で娘と兄夫婦、それに出産を控えて外国から里帰り中の兄夫婦の長女を迎えに行ってきました。その後1か月お寺の近所で暮らした兄夫婦は、昔なじみの檀徒さんや、街に買い物に出て被災者と知るとお店の人たちが本当に親切だったと、感激していました。

待ついても行政からの依頼は一向になく、再度伺ったら「地域ごと避難されているので、他の人と別れて別の所への避難希望者がいない。行政でも障害のある子供を抱えた家族の避難所を別に用意してあるが、今のところ希望者がいない」とのこと。やがて受け入れ先も旅館や保養施設が提供されるようになり、妙光寺の出番はありませんでした。

しかし後日、市役所に勤める檀徒の方が「福祉課で妙光寺さんからも受け入れの申し出があったと聞きました」と教えてくれ、役には立たなかったが無駄ではなかったと思っています。また他の日蓮宗の寺でも同様の申し出をしたそうで、事前に寺同士が連携して受け入れ態勢を作れば違ったかもしれません。

一日研修会



住職の講義



お経の練習



昼食風景



岩屋での終了式

お大会



待機するお稚児さん



山門からのお練り



本堂の大法要

参道工事



お大会の朝

春

の

妙

光

寺



親子三代の職人魂

神奈川県鎌倉市 遠藤毅士郎(69歳)さん一家

7月の関東のお盆には、先代の時代から住職が個々の檀徒宅に伺って40年以上になる。遠藤さんのお宅では、いつも家族全員が集まって一緒にお仏壇にお参りされる。近ごろはお参りの後、毅士郎さんの長男淳也さんがコックで、腕を振った料理が食卓に並んで会話が弾む。

毅士郎さんの両親は妙光寺の隣村、五カ浜の生まれ。父親の留一さんが幼くしてその父親と死別したため、小学校を出るとすぐに親戚を頼り上京して大工の見習いに入った。苦勞の末やがて独立、35歳のころには縁あって神奈川の藤沢市で仕事が増えた。住宅工事でも現場に飯場を建てて寝泊りする仕事ぶり、奥さんと5人の子どもは五カ浜に残し、正月に戻ればいいほうだったという。

長男の毅士郎さんが15才のとき、留一さんに「大工より左官屋になれ」と言われて東京千住の左官屋に連れて行かれ、そのまま置いていかれてしまった。そこで3年間弟子勤めの後、他所で経験を積んで20才でひとり立ちした。しかし留一さんは親子でやると問題が起こりやすいからと、一緒に仕事はしなかった。

やがて好景気の時代を迎え、留一さんの頑固なまでに誠実で職人気質、腕もいと口伝えて、当時藤沢市周辺に工場が進出してきた日立製作所の幹部役員の住宅の仕事が次々に舞い込んで来た。こうなると飯場暮らしもできず、借りた農家の牛小屋を改造して家族で暮らした。50才で「遠藤工務店」となり、ピークには大工さんだけでも20人以上を抱えた。その経理事務は毅士郎さんの妹と横須賀から嫁いだ妻の淳子さんが担当し、毅士郎さんは引き続き別に仕事を続けた。

毅士郎さんの長男淳也さんは、小学

写真は嫁いだ長女親子も入り、淳也さんが席をはずしてました



4年生頃までは学校から帰ると父親の仕事場で遊んでいた。中学生になって両親が忙しいので食事は自分で作り、そこから食品に興味をわいて就職先がシューマイで知られる横浜・崎陽軒。さらに調理士学校に進んで中華料理のコックさんになった。有名中華料理店を経て、今は某大手生命保険会社の研修施設の食堂で、多いときには一食で400人分を同僚と作る毎日。「大きな会社なので出世する人はペーパー試験で上に上がっていくけど、僕は現場で美味しいものをきちんと作りたい」と言う。

留一さん夫婦が亡くなって17回忌を迎えた。亡くなってから「遠藤工務店」を引き継いだ毅士郎さんだが、「不景気で職人さんは少ないけど、日立の幹部のお客さんから改修工事の依頼が絶えないので大事にさせてもらってます。親父が頑張ってくれたおかげです」と。親子3代、誠実に仕事に打ち込む職人気質の人柄が受継がれている。

留一さんが元気な頃、故郷五カ浜の家を建替えて夏など家族で年に数回は墓参りを欠かさなかった。しかし毅士郎さん夫婦も新潟までの運転が辛くなり、昨年墓を藤沢市営霊園に移した。同居する長男淳也さんは地元大船生まれの江利子さんとの間に、12才を頭に4人の男の子が生まれ、賑やかな8人家族となった。また全員が揃ってお仏壇参りのお盆がやってくる。



被災者の雇用

この頃お彼岸もあり、またなぜか葬式が続いて寺を空けることができず、被災地に少しでも物資を届けたいと思っても行けません。何もできないもどかしさを感じ、せめて避難生活が長期化する方に妙光寺で仕事が提供できないか、庭仕事の経験者なら一番いいが、そんな虫のいい話は無いね。そんなことを内部で相談していました。そんな矢先にお話がありました。

依頼している社会保険労務士で女性のTさんとの雑談中に、何気なくこのことを話題にしました。するといつもの大きな目がさらに大きくなって、驚いたという感じで話し出したのです。「いらっしやいますよ、すごくいい方が。福島原発から10キロ程の所で造園会社を経営していた親子が新潟に避難されています。再建が困難なので会社を休眠状態にして従業員を解雇する、そのお手伝いをしました。経営者には退職金も失業保険も出ないので大変ということもありますが、何よりも体を動かさないと毎日遊んでいるわけにも行かないでしょう。こちらのお庭の管理のならうってつけじゃないですか」と言うお話でした。

早速Tさんのご紹介のもとでお会いしました。お父さんは年金暮らしをするから息子さんだけでも働かせてもらえばありがたいとのこと。36歳の息子さんも経験豊富で申し分ないのですが、それだけの給与は保障できません。ところが新潟市営住宅に家賃無料で入居し、奥さんと二人だけなので働けるだけで十分ですとのこと。専門家のTさんが間に入って色々な条件をテキパキとまとめてくださり、5月の連休明けからとりあえず年内一杯お願いしたのです。

松本さんといいますが、専門職の資格をいくつも持ち、若いから動きも機敏でそして爽やかな人柄です。わずか一族ですが支援につながり、境内もきれいになって参拝の方々に喜ばれ、妙光寺全体にとってもありがたいことになりました。繋いでくれた社会保険労務士さんも日頃から妙光寺の運営に共感され、安心して双方を紹介くださいました。不思議なご縁に皆さんで驚き、双方で感謝するばかりです。

様々な支援を

先日僧侶の勉強会である大学の先生の講義を受け、復興支援が話題になりました

た。皆さんが身近でできることからやればいい。多く義援金が寄せられているが、その配分方法と時間のかかることが問題だ。宗教教団で集めた義援金は、行政を通じてばらまかれるより、まず被災地のその教団の寺の復興を優先すればいい。批判も出るだろうが、地域で寺がいち早く復興することは、精神的にも経済的にも波及効果は大きい。日本では理解されにくいかもしれないが、アジアの多くの国では災害が起こると、村人が一番先に宗教施設を復興する例が多い。そのようなお話でした。

細かく見ると支援にも色々な考え方ややり方があることがわかります。また様々な震災の体験談にも、被災地はもとより交通がマヒした首都圏でも、見ず知らずの人たちが助け合った心温まる話をたくさん耳にしました。画一的になりがちな行政の支援の一方で、一人ひとりの思いやりがまず基本だろうと思います。一日も早い復興が望まれますが、息の長い支援も忘れたくないものです。

(妙光寺でも日蓮宗の義援金要請にご協力をお願いしています)

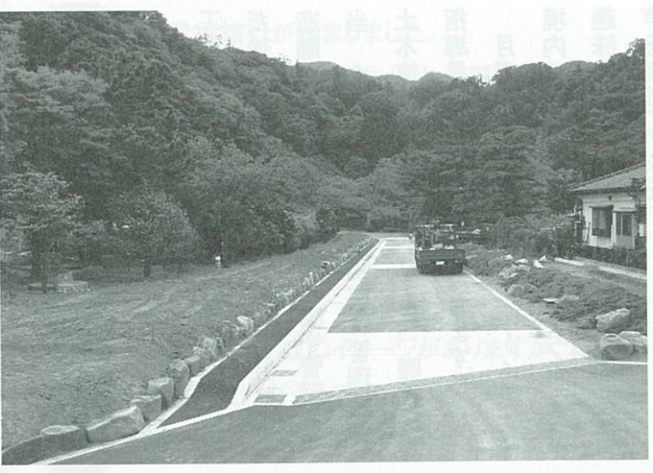
春の一日研修会

4月10日、春の一日研修会を春の陽光溢れるなかで行いました。震災後に申し込みが止まってしまう、10人と少なめの参加者でしたが、初めての方、2回3回目の方それぞれにゆったりとした気分でごさされました。特に住職の講義は希望でより身近な話題を中心にしたことで、盛り上がり時間が足りないほど。続きは秋となりまし。秋の研修会は11月13日、次号でお知らせします。



参道整備工事に着手

初めての方に入口がわかりにくい、大型車が入りにくい、と懸案だった入口と参道の改修工事に着手しました。経費は道路工事が境内整備資金、関連する植栽部分の造成工事等がこれまで戴いた寄付金です。今後、道路両側に桜等を植栽する計画ですが、資金の目途がありません。2013年に迎える妙光寺の開創700年記念事業のひとつとして、檀信徒の皆様にご協力いただく形を役員会で検討



お大会が厳かに

例年の大祭「ご判様」を今年も4月29日に催しました。「降っている雨も止む」いう昔からの言い伝え通りに今年も晴天。新緑の境内に雅楽と太鼓の音が響き、華やかな稚児行列が練り歩きました。300年は続くと言われる伝統行事ですが、信者の高齢化で参詣者が減少して先行き心配です。当番の巻、割前地区、応援の角田浜それぞれの檀徒の皆様ありがとうございました。



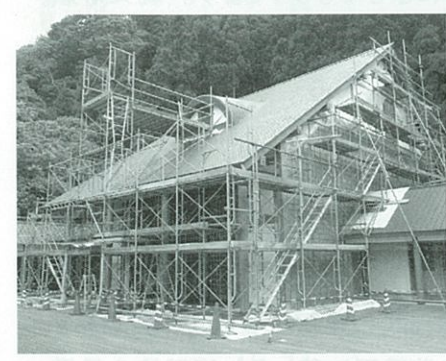
役員会議を開催

妙光寺では3名の総代を含む定員23名の役員会で、経理から全てを協議の上で運営しています。前年度の収支決算書が会計事務所から5月末に届くので、6月に定例役員会議を開催、今年は6月18日でした。今年には通常の議題の他、2年後に迎える開創700年の記念事業について相談しました。これについては次号でお知らせします。



建物補修工事が完了

本堂建替えの際10年ごとの補修を勧められたので、経費を積み立ててきて昨年冬から冬場と行事の期間を除いて半年間で実施完了しました。客殿の鉄骨塗装、男性トイレと玄関式台改修、建具塗装、本堂、祖师堂の外壁洗浄と塗装です。文字通り化粧直しできました。ありがとうございました。



本堂外部の足場

仏前結婚式

今年には仏前結婚式の申込みが2組あり、一組目が5月15日でした。まず新婦の柿崎桃さんのお父さんが眠る安穩廟に新郎の大森全晃さんと二人でお参り。記念写真を撮り、30分余りの式は、色鮮やかな散華の花びらが舞い、雅楽の生演奏と読経の中、式長の住職から記念の数珠が授与、二人が幸せな家庭を築くことを誓い、指輪の交換と続きました。そしてまばゆいばかりの新緑に囲まれた院庭で、親族と友人たち60人ほどによる立食パーティー。和やかな雰囲気も吹く風も爽やかそのものでした。次の結婚式は8月です。



桃さんのお兄さん手作りのケーキをカット

新人事

松本啓一郎さん（36歳）。大学で土木工学を専攻。卒業後他所で経験を積んだ後、福島県浪江町で父親の経営する造園会社に就職。現場作業や管理を担当。造園技能士、造園施行管理技師、土木施行管理技師 各1級、職業訓練指導員等多数の資格を持ちます。月曜日を定休にして9時〜4時まで境内で作業しています。サーフボードが趣味と明るい人です。見かけたら気軽に声を掛けてください。



松本啓一郎さん

「みのぶ」誌で紹介

総本山身延山久遠寺（山梨県）では、「みのぶ」という70ページ近い寺報を毎月発行しています。その4、5月号で2回にわたり身延山大学図書館長の望月先生が、身延山と妙光寺の歴史的な

関係について紹介されました。

先の「ご判さま」行事に由来する「霊山契約の契印」と、「七面山発祥の伝説」の2つの話題です。いずれも身延山にとって重要なもので、そのルーツが妙光寺に関係するかどうかというものです。

「妙光寺は真言宗や修験道と深いつながりがあるといわれ、近隣の弥彦山や角田山は修験道の行場として知られています。その麓に七面大明神の話が伝わるのは、身延七面山と修験道のつながりからしても不自然ではない気がします。七面大明神最初教化の霊場である妙光寺と身延山との結びつきについては、未だ明らかになっていないこともあり、今後調査していく必要があるでしょう。」「みのぶ」5月号より一部抜粋

妙光寺の10月の身延山・七面山団体参拝の際に、望月先生から直接お話しいただくことになりました。参加申込案内は12ページです。



サギの被害

と言っても、振り込め、や、オレオレ、でなく鳥の鷺です。三重塔の池に放した数センチの錦鯉の稚魚が今や15cm余りの立派な姿になったところに、鷺が飛来して食べてしまうのです。水面に糸を張りめぐらして防衛しているのですが、



効果がありません。ご存じの方は対策を教えてください。

ソウル花祭り団体参拝旅行

韓国で旧暦に合わせて行われるお釈迦様の誕生を祝う「花祭り」。これに参加する5月7日から3日間の団体旅行が無事に終わりました。震災で取りやめた方もおられたものの総勢で30人が、新潟、成田、福岡から韓国・仁川空港に集合。関心があるからと千葉と大分の若いご住職3人も参加してお手伝いいただきました。爽やかな晴天に恵まれ、元気な韓国仏教に感動して、大いに食べて笑った旅でした。

元気な韓国仏教に圧倒された旅 新倉 理恵子



5月7日（土）午前11時、韓国に到着。二泊三日の妙光寺団体参拝旅行が始まりました。

この旅の目的の一つは、ソウル中心部で行われる釈迦の降誕を祝う「燃燈會」に参加することです。早速、曹溪寺（韓国仏教最大の宗派である曹溪宗の本山）に行ってみると、すでに広い院庭いっぱいに色とりどりの提灯が飾られ、ステージ上では子どもたちがダンスをしていました。

韓国というキリスト教のイメージがありますが、実際は半数が仏教徒なのだそう。お寺の境内は、老若男女あらゆる年代の人たちが大勢集まっています。

夜は片側四車線の大きな通り（鐘路）を交通止めにし、パレードが行われました。ソウル市内のお寺や仏教団体が、思い思いの趣向を凝らして行進します。ねぶたのような大きな山車の上に灯りを点した釈迦や動物などの像を乗せてくるグループもあり、手に手に提灯を持って踊りながらやってくるグループもあります。そろいの提灯を掲げて、スキップして進む中年のおじさん五十人ほどの列もありました。沿道にも見物人がぎっしりと並び、警官が大勢出て警備をしていました。ちょっとしたお祭り以上の人出です。各グループを紹介するアナウンスが響くと、パレードの人たちが手を振ります。沿道の人たちも、声援を送ります。「アンニョンハセヨ! コマッサムニダ! (こんばんは! ありがとう!)」温かいやりとりは、本当に気持ちのいいものでした。

私たちの前に、西欧人の幼い姉妹が、お母さんと一緒に見物していました。パレードの人たちは皆、この姉妹に声をかけていきます。子どもが大好きな民族のようです。一人のおばさんが姉妹に、持っていた赤い提灯を渡しました。私たちも手を出して、やや強引に緑の提灯をもらいました。丁寧に緑の紙を幾重にも貼り、薄いピンクと紫の花をあしらった、おしゃれな手づくりの提灯です。パレードの人たちが掲げる山車飾りや提灯は、例外なくすべて手づくりでした。日本のお祭りのように、企業が名前を入れて揃いで作るということはないようです。

韓国の仏教は、明るく熱気にあふれているということを実感した夜でした。

翌日の午後は、「燃燈會」のもう一つのメインである



夜の提灯行列

「ハスの花づくり」を体験しに行きました。紙コップに、きれいな韓国紙の花びらを貼りつけて、花を作ります。曹溪寺周辺の道路が歩行者天国になり、テントがたくさん張られて、さまざまな大きさの「ハスの花づくり」が行われていました。

この「ハスの花づくり」は、今年の夏の「送り盆」で行う予定なので、作り方を覚えねばなりません。ほどよい大きさのハスの花を作っているテントを、曹溪寺境内でみつけました。

「これだ、これだ」と5名の日本人僧侶を含む10名がテントに座り込みます。テントの中にいた係の若い韓国女性、韓国語で「いったい何?」という表情でした。早速皆で、花づくりにとりかかります。驚いている韓国のお姉さんに、案内役の宋さん（小川住職のお知り合いで今回の旅のお世話をしてくださいました）が事情を説明してくれました。事情がわかると、お姉さんはますます親切になりました。そこからは、こちらも向こうも真剣です。小一時間ですてきなハスの花が五つできあがり、韓国の皆さんから拍手をしてもらって、大満足しました。材料の韓国紙もたくさん買ってきました。夏の「送り盆」では、参加者の皆さんと一緒に、楽しく花づくりをしたいと思います。

今回の旅では、京畿道の日蓮宗のお寺、宝土寺の参拝も経験しました。ご住職は、縁あって日本に留学して日蓮宗を学ばれた方です。韓国語のお題目とお経も、体験しました。観光客の行かない韓国の田舎町は、つつじが満開でとてもきれいでした。昼食も用意していただき、家庭料理を堪能しました。

宋さんが予約して下さったレストランはどれもおいしくて、お腹いっぱい食べたのに帰国してみると体重は減っていました。韓国料理の神秘に、感動です。

本当に楽しい旅でした。明るく元気な韓国仏教に触れる旅、またぜひ韓国を訪ねたいと思っています。



韓国のサムルノリの演奏

ベトナム水上人形劇

7月24日(日) 15:00~

ベトナムの水上人形劇は千年以上前から伝わる大変歴史のある伝統芸能です。7~8メートル四方の水槽を舞台にして、ベトナムの民話・伝説・習慣などを題材として演じます。ベトナム民謡の調べにのってコミカルで愛嬌のある人形たちが、まるで魔法にかけられたかのように水上を器用に動きます。院庭に特設プールを作ったの上演です。ご希望の方は、妙光寺にお問い合わせください。



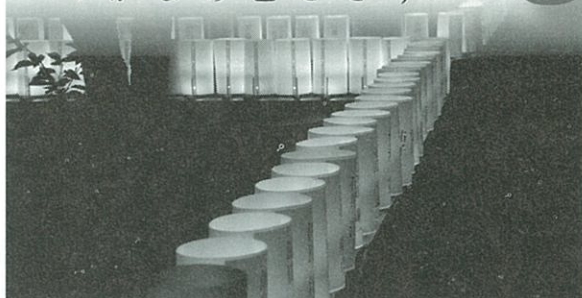
- 入場料 1,500円
- 主催 2011東アジア児童青少年舞台芸術フェスティバル新潟市西蒲区実行委員会
- 助成 平成23年度文化庁国際芸術交流支援事業
- 共催 子ども劇場おやこ劇場新潟県センター、まきおやこ劇場
- 後援 外務省・国際交流基金・在日ベトナム大使館

8/27 土

万灯のあかり—妙光寺の送り盆

一昨年まで20回続いたフェスティバル安穩ですが、より広く檀信徒の皆さんにも参加していただきたいと昨年から内容と名称を一部変更しました。古来の盆踊りのイメージをもとに、明るい中にもしっとりした趣きで、死者と生者がその絆を確認する場になること

を願っています。今年も縁あつて韓国のサムルノリの演奏が堪能できます。農民の伝統楽器を基にしたたくましい音色と、宇宙と一体になるかのような不思議な響き。いやや韓国の仏教行事には欠かせないほどになっています。ぜひお出かけください。



8/7 日

住職の対談

「地域医療を考える」という色平医師他の講演会チラシを同封しました。ボランティアに支えられて車いすの生活を送る新潟市和納の小林敏夫さんが、これからは地域の人たちによる支援が一層大切と企画したものです。講師のお二人から「巻でやるなら小川住職との対談も

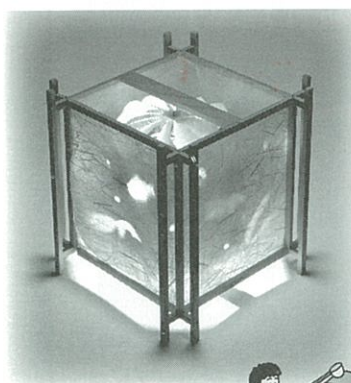
入れたい」と提案されたそうで、場違いな気持ちもありましたがお受けしました。色平医師は以前妙光寺を訪ねていただいたのが縁で、またバブさんはバン格拉デシユの熱心な仏教徒です。広い会場で席が埋まるか主催者が心配しており、お時間のあ

年会費その他のご案内

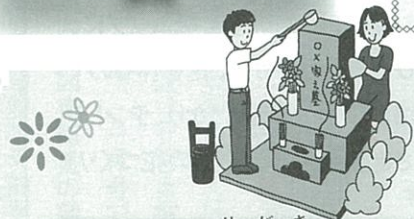
郵送の方には振込用紙で、世話人が何う地区の方には直接に、年会費その他のご案内をいたしました。それぞれに説明書を添えてありますのでご覧いただき、お願いします。

東北大震災の義援金

このたびの東北大震災では、日蓮宗の寺院とその檀信徒も被災されました。その復興に日蓮宗から各寺院と檀信徒に協力要請があります。出費が多端の折誠に恐縮ですが、一口500円からのご協力をお願いします。



お盆



墓参りと施餓鬼供養 8月1日

8月1日、お盆のお墓参りは朝6時から10時ころまで、個々に墓前での読経をお受けしています。安穩廟も同様です。7~8人の僧侶が水屋周囲に待機していますので、直接声を掛けて依頼してください。

10時30分から安穩廟法要、11時から本堂で施餓鬼法要と新盆法要です。本堂にお参りください。

施餓鬼塔婆供養 8月1日

亡き人への供養の思いを表す卒塔婆(長さ150cmの板状)に、戒名またはお名前を書いて本堂に立て、施餓鬼法要で一本ごと住職が読み上げます。このままお盆中16日まで立てて置きます。お申し込みは同封のハガキか世話人に直接どうぞ。



塔婆を立てて施餓鬼法要

新盆法要 A8月1日 B8月7日

昨年のお盆以降に亡くなられた方は新盆ですので、檀徒には直接お知らせします。本堂に個別にお位牌を安置しご供養しますので、ご親族でお参りください。妙光寺の檀徒以外でもご希望の方はご供養をお受けします。7月25日までにお申し込みください。

新盆提灯

新盆の精霊の供養で、高さ50cmの提灯に戒名またはお名前を墨で書いて灯します。8月1日のお盆法要から本堂にさげて、27日の送り盆には東屋の常経所に灯します。家に持ち帰り、お盆期間中ご自宅灯すこともできます。、一張り5千円。7月25日までにお申し込みください。

千提灯 8月1日~27日

「万灯のあかり」の一環で、お盆の供養に約一千個の提灯を8月1日から院庭に吊ります。韓国の花まつりでは全てのお寺に万の数の提灯が吊るされて、夜には電球の明かりがとても華やかです。今回は節電もあり電気は入れません。提灯は神奈川県お寺からお借ります。

迎え火・送り火

13日夜の「迎え火」、27日夕方「送り盆」の会場で灯す高さ9cmの特製カップロウソクです。2個セットで500円。お申し込みいただくと世話人が、13日前に棚経に何う際にお届けします。それ以外の方は受付にもあります。

棚経 8月初旬~16日

住職と鎌田、永石それぞれお手伝いの成川上人の4人で、全檀徒宅にお盆の棚経に伺います。旧新潟市内、県内遠方のお宅はご連絡の上で8月初旬から、近隣は従来の日程です。予定を知りたい方、お留守のお宅は8月5日過ぎにお電話ください。

秋の行事

生前戒名 10月23日(日)9時集合

戒名は仏様のお弟子になった証ですから、生前につけるのが本来です。戒名をいただき、その後の人生を戒めるといふ意味があります。日蓮宗では法号といいますが、菩提寺の住職が仏様に代わりお授けするものなので、その寺の檀徒になった方しか付けないのが本義です。個人に付ける

ものですから代々続かなくても、ご夫婦の一人だけでも問題ありません。

ご希望の文字をお聞きします。費用は3万円で、当日の参加費のほか、お名前と法号を金糸で刺繍した略式袈裟と数珠の記念品が含まれます。お問い合わせで説明書をさしあげます。

募集

身延山・七面山 団体参拝

10月8日(土)～10日(月・祝)
(土曜から3連休)

新潟から貸切大型バスで総本山身延山久遠寺に参拝、宿坊に泊まります。2日目は標高2kmの七面山に平均4時間の登りで宿坊泊。登らない方はロープウエーで奥の院参拝他その後、湯村温泉に泊まります。残席若干名につきお問い合わせください。



あんのんのページ

幅広い方がさらに多く参加されるよう、昨年から名称と内容を大きく変えました。そのため一部混乱もあり、今年は改善策としていくつかの変更があります。

「交流会」として特に時間を設けなかったため、「楽しみにしていたいつもの方に会えなかった」との声がありました。そこで今年は予約制ですが



万灯のあかりに参加ください

(第22回フェスティバル安穩)



蓮の花飾り

時間を決めた交流会にします。また、受付スタッフから「入口での参加協力は戴きにくい」との意見で参加費無料にしました。「その分お賽銭箱を増やせばいい」とのありがたい意見もありました。ご協力をお願いします。その他、送迎バスの運行も変更がありますのでご注意ください。

次の時代を担う子供たちが親し



んで思い出となるように、昨年好評の大道芸が今年もあります。さらに、紙コップの台に特殊な紙の花びらを張り着けて作る、蓮の花飾り体験コーナーが新たに加わります。

小学生から大人まで

夢中になってしまふ、

とてもきれいで完成

品はお持ち帰りでき

ます。夜はこの蓮

人形芝居無屋
「さんまのおふだ」

の花飾りに、一部ロウソクの火を灯す予定もあります。ぜひお出かけください。

墓碑の文字消え対策

墓碑に刻んだ文字が際立つよう色をつけていますが、これが経年で色落ちしてしまいます。石材店が塗料メーカーに相談していますが、石への着色の場合長年は持たないとの回答です。引き続き適当な塗料を調査中ですが、特に色落ちが気になる方はお申し出ください。

「杜の安穩・池ノ上」好評

昨年開設した「杜の安穩・池ノ上」の申込みが続き、既に7割が契約済みです。皆さんからの紹介の方が多く、感謝しています。残り3割がなくなる、あと100区画程の増設で完全に受付を止めることとなります。

結婚式

写真撮影・提供 スタジオ ポートイマジン



新婦のお父さんのお墓参りから戻る



誓いの杯



結婚証明書が住職から



院庭でのパーティー

ソウルの花祭り



夜の曹溪寺



提灯行列のスタート



曹溪寺の境内で



寶土寺で昼食のご供養を戴く



日蓮宗・寶土寺本堂前で



「決算報告！と宝物」 小川なぎさ

し らじらと夜が明けてくると、にわかには外がにぎやかになる。(ほーほけきよ、ほーほけきよ)(ちゅちゅ、ぴいっよ…) それにしても、このウグイスという鳥はどうしてこんな鳴き声なのだろうな。などと思いつつ外にでて、朝の空気を吸い込むのがこの季節の楽しみだ。なにせ夜明けとともに目が覚めてしまうから。三文の徳になっているかどうかかわからないけれど、この静かな朝が大切な時間だ。

寺の法人としての収支決算は年1回、4月から翌年3月までの収支を6月の世話人総会で報告する。会計事務所の正式な決算書類(貸借対照表)はなんとも理解しがたく、会社の決算書に関する本を読んだりもしてみたが、何年たっても、この数字を実感としてとらえるのはむずかしい。収支計算書は入ったものと出たもので、これはわかりやすいが、こんどは全体としてのふところ具合が見えてこない。それでこれらの数字をかみくだき、会議に報告できるように準備するのが、この時期の仕事だ。昨年、長い間の念願だった社会保険(厚生年金などの)加入も実現して、宗教法人としての体裁がととのった。一般会計と、安穩事業の2本の柱が寺をささえる。

境内入口の工事で定期的な補修工事で、外部の人からは「寺ばかりだな。景気がいいのは…」なんて言われることもあるけれど、寺はその理念がゆるぎないものなら、何をいわれても怖くない。現実には社会や檀信徒のために存在していると、みなさんに理

解してもらえる活動を続けることで名実ともに宗教法人になれると思っている。だから宗教活動や寺の運営には法人税なし、これが坊主丸儲けと勘違いされてしまう所以かも。ちなみに一般会計予算のおよそ6割が人件費で、一応経理部長としてスリル満点の日々を送っているのです。(笑)

お坊さんも個人的にはみんなと同じ、源泉徴収で税金を払っている。守らなければならない家族がいると給料も必要だ。僧侶は独身でいるべき、と個人的には思うのだが。せめて本来の宗教活動に専念できるように寺の経営は最低限安定させて、お上人さんたちにはその使命をまっとうしてもらいたいと願っている。

マツダ自動車2代目の社長が好んだ言葉、「照一隅者は国土」は、テレビで見つつか紹介しようとメモしておいた。「それぞれの役割において、隅を照らすものが国の宝である。」という意味らしいが、3月の震災後、私たちの日本には宝ものような人々がたくさんいることに勇気づけられた。また寺においては、日々そういう方々によって支えられている。寺の決算で数字はさほど問題ではない。どんな形にしろ受け継がれて700年あまり、53代目の住職が現役だ。優良企業!! 私たちの寺、お宝はないが、かかわる方々全員が株主であり宝物ではないだろうか。

大好きな映画に影響されて、昨年かき氷マシンを自腹で買ってしまった。夏の寺参りは冷たいかき氷で! お待ちしています。

